

图2-1-24. 不明水発生区域图 (S=1/6,000)

凡例	
記号	名称
—	不明水発生路線

表 2-1-18 に緊急度判定結果一覧、図 2-1-25 に緊急度判定結果割合を示す。

表 2-1-18. 緊急度判定結果一覧表

区分	延長 (m)	割合 (%)
緊急度 I		
緊急度 II	69.45	3.77%
緊急度 III	683.76	37.13%
劣化なし	1,088.30	59.10%
計	1,841.51	100%

※公共下水道調査・清掃作業（単価契約-公 30）の調査未実施分 77.98m を除く。

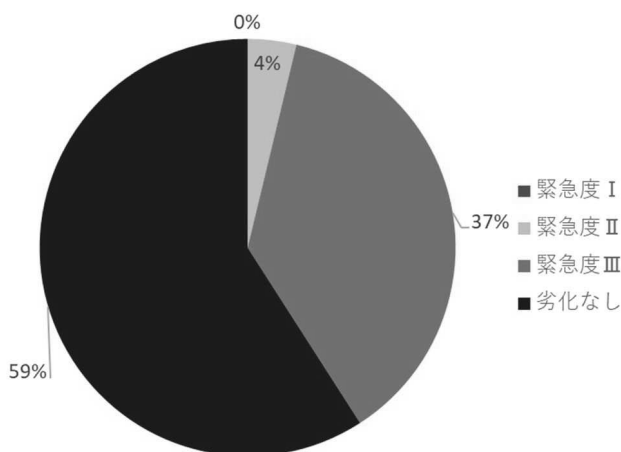


図 2-1-25. 緊急度判定結果割合

診断結果より、緊急度 I は存在せず、緊急度 II（5 年未満に対策が必要な管きょ）の割合は約 4%である。

また、重大な異状として、破損 A、浸入水 A が確認された。浸入水 A はすべて本管の継目で発生している。図 2-1-26 に異状写真の抜粋、表 2-1-19、表 2-1-20 に緊急度判定一覧表を添付する。



図 2-1-26. 異状写真（左・中央：破損 A、右：浸入水）

2) 地盤情報、地震被害予測資料、ハザードマップ等

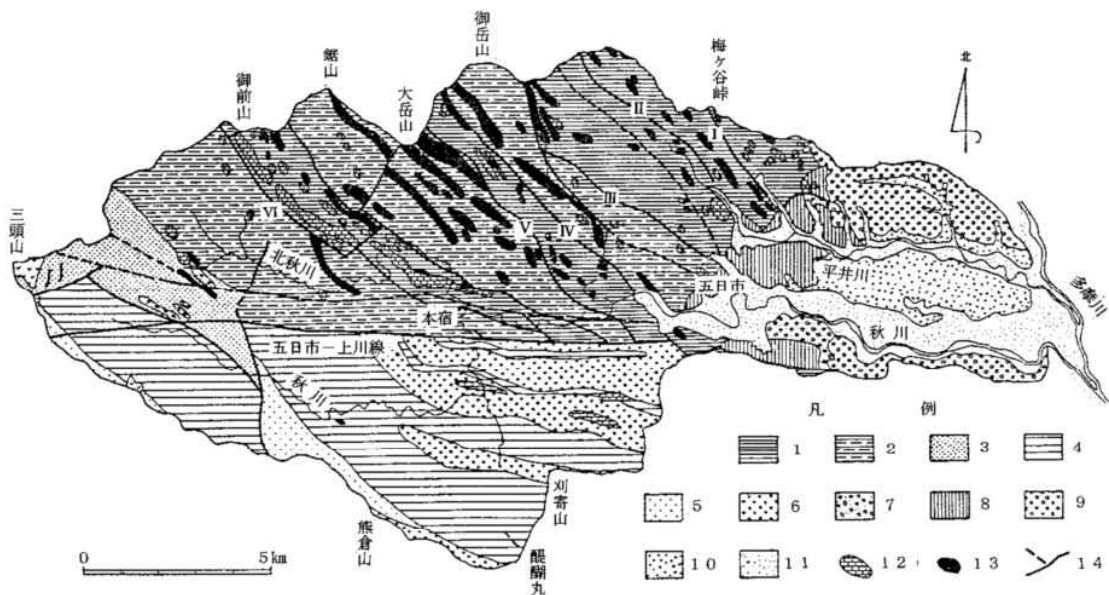
あきる野市を含む秋川流域の山地の地質は、五日市―川上線によって大きく二分され、北部の秩父帯南帯と小仏層群からなっている。また、秩父系および小仏層群に囲まれて、五日市盆地には古い基盤とは不整合関係あるいは断層で接する五日市町層群が分布している。

五日市町層群は、下部の秋川層と上部の網代層に二分され、それらは不整合関係で接している。五日市盆地の東側に位置する伊奈丘陵も、五日市町層群からなっている。

秋川の下流の右岸側（南側）には加住丘陵、左岸側（北側）には秋留台地がそれぞれ広がっている。また、秋留台地の北方には平井川を隔てて羽村草花丘陵が位置する。

加住丘陵の地質は、鮮新世の加住礫層・小宮砂層からなり、丘陵の背面の東部は堆積面と考えられる。羽村草花丘陵には大荷田礫層が分布し、鮮新世下部と考えられる。秋留台地の基盤は鮮新世の五日市砂礫層で、その上位に不整合関係で立川段丘礫層に対比されると考えられる礫層が堆積し、関東ローム層に覆われている。台地の周囲に分布している小規模な丘陵は、五日市砂礫層を不整合に覆う沖積世の段丘礫層からなっている。

図 2-1-27 に秋川流域の地質を示す。



1. 秩父古生層（礫岩・砂岩・頁岩の互層） 2. 鳥ノ巣統および時代未詳中生層（礫岩・砂岩・頁岩の互層） 3. 鳥ノ巣統および時代未詳中生層（砂岩） 4. 中生代白亜紀層（礫岩・砂岩・頁岩の互層） 5. 中生代白亜紀層（泥岩） 6. 中生代白亜紀層（砂岩） 7. 新第三紀層（礫岩） 8. 新第三紀層（礫岩・砂岩・頁岩の互層） 9. 第三紀末～第四紀初期の礫層 10. 後期洪積層 11. 沖積層 12. 石灰岩 13. チャート 14. 断層および推定断層

I 長井断層 II 肝要断層 III 深沢断層 IV 大岳沢断層 V 海沢断層 VI 御前山断層

秋川流域の地質（「秋川流域の陸水学的研究―特に秋留台地の地下水と

秋川の流量について―（角田清美 1983年）」より引用）

出典：地域防災計画 P13

図 2-1-27. 秋川流域の地質